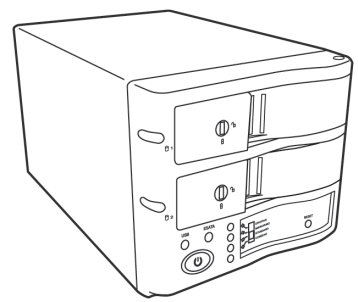
裸族の二世帯住宅

取扱説明書



CENTURY

CRNS35EU2 Manual　2007/11/29

弊社商品についてのご意見・ご感想をお聞かせください。

この度はセンチュリー商品をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。今後の商品開発等の参考にさせていただきたいと思いますので、商品についてのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。下記e-メールアドレス、またはURLにて受け付けております。どうぞよろしくお願い致します。

Mail : call@century.co.jp　web : http://www.century.co.jp/call.html

【はじめに】

このたびは裸族の二世帯住宅をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用の前に本説明書を必ずお読み下さい。

【安全上のご注意<必ず守って頂くようお願いいたします>】

・ご使用の前に、安全上のご注意をよくお読みの上、正しくご使用ください。
・この項に記載しております注意事項、警告表示には、使用者や第三者への肉体的危害や財産への損害を未然に防ぐ内容を含んでおりますので、必ずご理解の上、守って頂くようお願いいたします。

■次の表示区分に関しましては、表示内容を守らなかった場合に生じる危害、または損害程度を表します。

⚠警告	この表示で記載された文章を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性を想定した内容を示します。
⚠注意	この表示で記載された文章を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害ないし物的障害を負う可能性を想定した内容を示します。

⚠警告

■煙が出る、異臭がする、異音がでる
煙が出る、異臭がする、異音がでるときはすぐに機器の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買上げの販売店へ修理を依頼されるか、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■機器の分解、改造をしない
機器の分解、改造をすることは火災や感電の原因となります。
点検及び修理は、お買上げの販売店へ依頼されるか、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■機器の内部に異物や水を入れない
筐体のすきまから内部に異物や水が入った場合は、すぐに機器の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買上げの販売店へ修理を依頼されるか、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■湿気や水気のある場所では使用しない
台所や風呂場などの、湿気や水気のある場所では使用しないで下さい。機器の故障や、火災の原因となります。

■不安定な場所に機器を置かない
ぐらついた台の上や傾いた場所、不安定な場所に機器を置かないで下さい。落ちたり、倒れたりしてけがの原因になることがあります。そのまま使用されると火災の原因になる可能性があります。

■電源の指定許容範囲を守る
機器指定の電圧許容範囲を必ず守ってください。定格を越えた電圧での使用は火災や感電、故障の原因となります。

■電源コード、接続コードの取り扱いについて
電源コード、接続コードの上に機器本体や重い物を置いたり、釘などで固定すると傷ついて芯線の露出や断線などによる火災や感電の原因になったり、機器の故障につながりますので必ず避けてください。また、足を引っかける恐れのある位置等には設置しないで下さい。

■雷が鳴り出したら電源コードに触れないで下さい。
感電したり火災の原因となります。

■ぬれた手で機器に触らない
ぬれたままの手で機器に触れないで下さい。感電や故障の原因になります。

⚠注意

■設置場所に関しての注意事項
以下の様な場所に置くと火災や感電、または故障の原因となります。
・熱、暖房器具（ストーブ、アイロン、ヒーター等）の近く。
・油煙や湯気ののあたる調理台、加湿器等湿気の近く等ほこりや湿気の多い場所。
・直射日光のあたる場所。

■長期間使用しない場合は接続コードを外してください
長期間使用しない場合は接続コードを外して保管してください。

■機器を移動するときは接続コード類をすべて外してください
移動する際は必ず接続コードを外して行って下さい。接続したままの移動はコードの断線などの原因となります。

■小さいお子様を近づけない。
お子様が機器に乗ったりしないよう、ご注意ください。怪我などの原因になることが有ります。

■静電気にご注意ください
本製品は精密電子機器ですので静電気を与えると、誤動作や故障の原因となります。

■もくじ

■はじめに …… i
■安全上のご注意 …… i
■もくじ …… ii
■特長 …… 1
■制限事項 …… 1
■ご使用の前に …… 1
■製品仕様 …… 2
■製品内容 …… 2
■各部の名称 …… 2
■対応 HDD …… 3
■対応機種・対応 OS …… 3
■ HDD 組み込み方法 …… 4
■使用方法 …… 9
■ディスクの構成を設定する（モード設定） …… 10
■領域の確保とフォーマット …… 17
■コンピュータ起動中のモード変更と HDD の取り外し …… 26
■ Macintosh での使用方法 …… 27
■トラブルシューティング …… 29
■よくある質問と回答 …… 30

【特長】

◆SATA HDD を２台収納可能！
◆ケーブルレス＆工具いらずで楽々組立て！
◆高速・安心のハードウェア RAID 機能搭載（ストライピング・ミラーリング）
◆ミラーリング時、自動再構築（オートリビルド）機能搭載、初回構築時や障害時の復旧も楽々！
◆高速転送の eSATA 接続、お手軽簡単の USB2.0 接続、選べる２種類の接続方法！

【制限事項】

・本製品を使用するによって生じた直接、間接の損害、データの消失等については、弊社では一切その責を負いません。
・本製品は、医療機器、原子力機器、航空宇宙機器、など人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備、機器での使用は意図されておりません。このような環境下での使用に関しては一切の責任を負いません。
・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは誤動作することがあります。必ず離してご使用ください。
・本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内での使用を前提としており、日本国外で使用された場合の責任は負いかねます。
・本機は 3.5 インチ／SATA ハードディスク専用です。(PATA は使えません。)
CD-ROM 等の動作はサポート外とさせていただきます。

・本製品はデータ保全手段の一つを提供するだけで、必ずしもお客様のデータ保護を保証するものではありません。データの保護には必ず他の装置や媒体へのバックアップを行ってください。

【ご使用の前に】

・本書の内容等に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
・本書の内容に関しましては、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点や誤りなどお気づきのことがありましたら、弊社サポートセンターまでご連絡頂きます様お願いします。
・ Windows は Microsoft Corporation の 登録商標です。
・ Macintosh は Apple,Inc の 登録商標です。
・改良のため、予告なく仕様を変更することがあります。

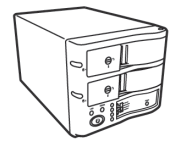
【製品仕様】

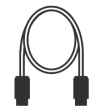
商品名	：裸族の二世帯住宅
型番	： CRNS35EU2
インターフェイス	： USB2.0/eSATA
USB コネクタ形状	：レセプタクル B タイプ
重量	：約 1,825g(ドライブ含まず)
寸法	：幅 130mm ×高さ 115mm ×奥行 210mm
温度、湿度	：温度５～35 度 湿度 20～80％（結露無き事、接続する PC の動作範囲内である事）

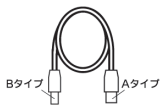
※本製品にハードディスクドライブは含まれておりません。

【製品内容】

・裸族の二世帯住宅 本体
・ eSATA ケーブル× 1
・ USB ケーブル× 1
・専用 AC ケーブル
・取扱説明書（本書）
・保証書（本書裏面）


裸族の二世帯住宅 本体


eSATAケーブル×1

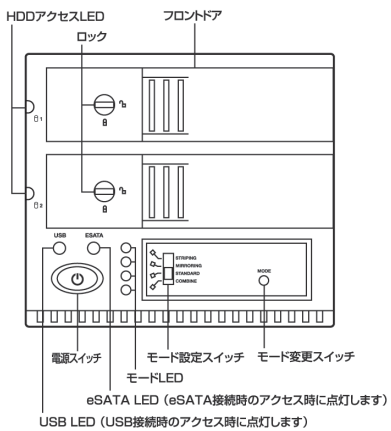


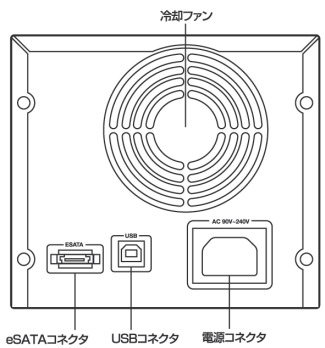
USBケーブル

専用ACケーブル

取扱説明書(本書)
／保証書(本書裏面)

【各部の名称】





●HDD アクセス LED

通常時	：青点灯
アクセス時	：青→ピンク点滅（アクセス頻度によって点滅間隔は異なります）
HDD 異常時	：青→赤→青→赤 （一定間隔で連続で点滅します）
同期処理時	：ピンク→赤→ピンク→赤（一定間隔で連続で点滅します）

※同期処理はミラーモードのみ。
※同期処理時の点滅は色の関係上、赤一色にしか見えない場合があります

●冷却ファンは温度に合わせて回転する温度検知式となっております。
電源が入った直後等、回転しない事がありますが、これは故障ではなく仕様となっておりますので予めご了承下さい。

【対応 HDD】

■ SATA 仕様の 3.5 インチ HDD

※本製品はシリアル ATA HDD 接続専用です。PATA（パラレル ATA）は接続できません。

※２台の HDD を RAID で使用する場合は、同型番、同一容量の HDD のご使用を推奨します。　異なる型番・容量の HDD にて RAID 構築を行った場合、使用できる容量の減少、パフォーマンスの低下、または RAID として動作しない場合がございます。予めご了承ください。

【対応機種・対応ＯＳ】

eSATA 接続する場合 ※ 2007 年９月現在。

■ Windows

・ポートマルチプライヤー対応 eSATA インターフェイスを備えた PC/AT 互換機

・対応 OS ：

WindowsVista/Windows2000/WindowsXP

■ Macintosh

・ポートマルチプライヤー対応 eSATA インターフェイスを備えた Macintosh

・対応 OS ：

Mac OS 10.4 以降

USB 接続の場合

■ Windows

・ USB2.0 インターフェイスポートを搭載した PC/AT 互換機（USB2.0 モード動作時）

・ USB1.1 インターフェイスポートを搭載した PC/AT 互換機（USB1.1 モード動作時）

※ intel チップセット搭載モデル推奨

・ Pentium300MHz/メインメモリ 128MB 以上。

・対応 OS ：

Windows Vista/WindowsXP/Windows2000

※ Windows95/Windows98/Windows98SE/Windows3.x/WindowsNT/WindowsMe では動作しません。

※ Windows98 発売以前に発売、製造されたコンピュータは、USB ポートの問題で正常に動作しない場合があります。

※次の機種では正常に動作しない可能性があるため、サポート対象外となります。

東芝製 DynaBook ,Satellite シリーズ（K6 CPU 搭載のもの）

IBM 製 Aptiva E シリーズ（AMD K6 CPU 搭載のもの）、SOTEC 製 e-note M260 シリーズ。

※ sis7000/7001/7002.PCI to USB Host Controller 搭載 PC は、USB Host Controller の問題で正常に動作しない可能性があります。

■ Macintosh

・ MacPro、Power Macintosh G5、Mac mini、eMac、iMac、MacBook Pro、Power Book G4、MacBook、iBook G4（USB2.0 インターフェイス標準搭載モデル）

・対応 OS ：

Mac OS 10.3 以降

※製品の性質上、全ての環境、組み合わせでの動作を保証するものではありません。

本製品からの OS 起動に関して

本製品からは Windows の eSATA 接続に限り OS 起動が可能です。起動に関しては eSATA ホストインターフェイスの取扱説明書をご確認ください。

※ Mac OS の OS インストール・ OS 起動には対応しておりません。

USB 接続での OS 起動は出来ません。

【HDD 組み込み方法】

■ハードディスク接続の前に

⚠警告 ・ハードディスクを接続するまえに、電源プラグをコンセントから抜いておいて下さい。
コンピュータの電源が入った状態で作業を行うと、感電などの事故や、故障の原因となります。

・ハードディスク接続の際には、静電気に十分注意して下さい。
人体に滞留した静電気が精密機器を故障させる原因になる事があります。
作業の前に、金属のフレームなどに触れて放電するか、静電気防止バンドなどをお使い下さい。

■組み込みの前に

・ハードディスクおよび本製品の基板部は精密機器ですので、衝撃には十分ご注意ください。

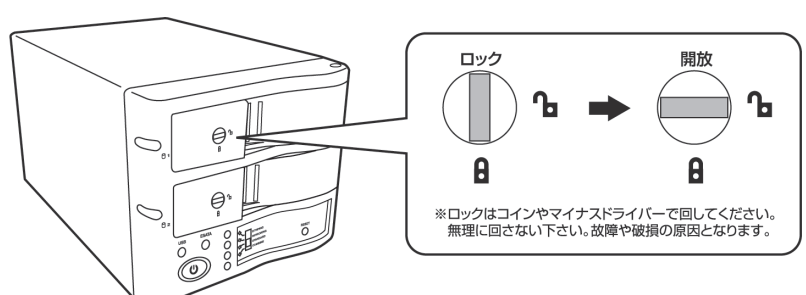
・ハードディスク接続の際には、静電気に十分注意して下さい。人体に滞留した静電気が精密機器を故障させる原因になる事があります。作業の前に、金属のフレームなどに触れて放電するか、静電気防止バンドなどをお使い下さい。

⚠注意 ・フレームや HDD コネクタ、基板で手を切らないようにご注意ください。

※注意
既にデータの入っている HDD を接続する場合は、接続時の不測の事態に備えてデータのバックアップを必ず行って下さい。

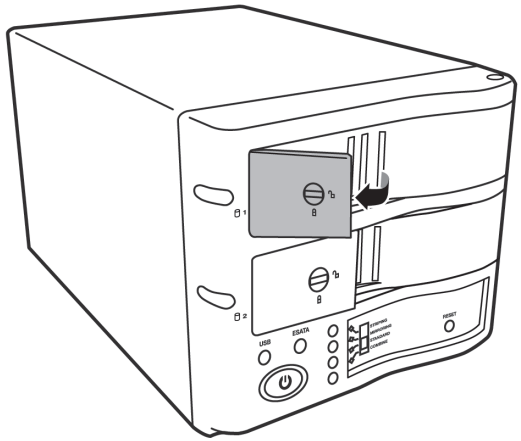
■ハードディスクの取り付け方

1 ：フロントドアのロックが解放状態にある事を確認する。

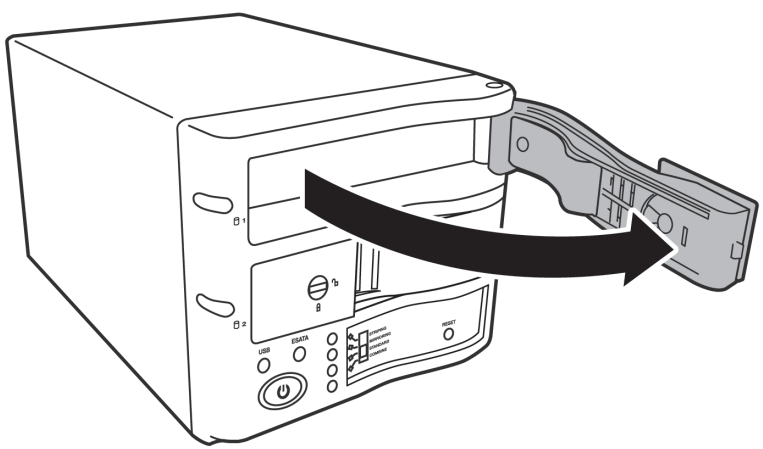


⚠注意 HDD やドア等、各金具の端で手を切らないようにご注意ください。

2 ：フロントドアのノッチを手前に引きます。

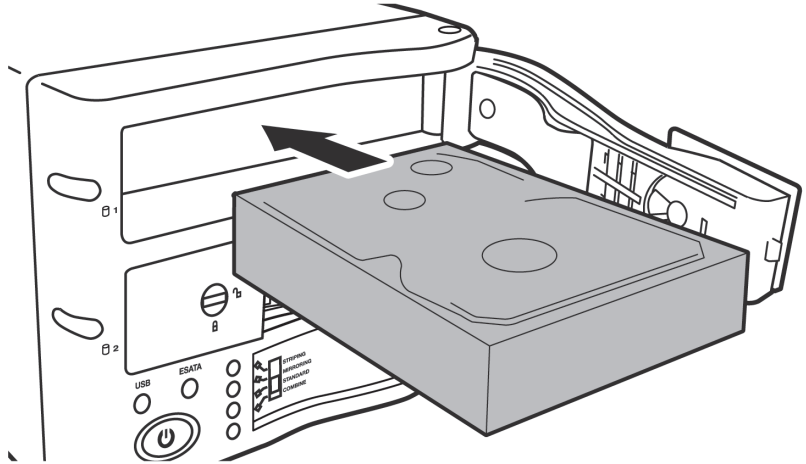


3 ：フロントドアを開けます。

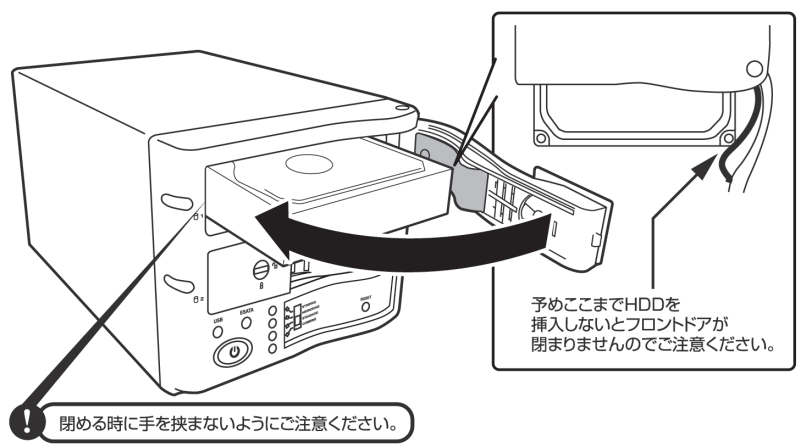


⚠注意　・本製品のドアに手を挟んだり、本製品のフレームやHDDの基板面、コネクタ等で手を切らないよう十分ご注意ください。

4 ：HDDを匡体内に入れ、軽く当たったところで止めます。



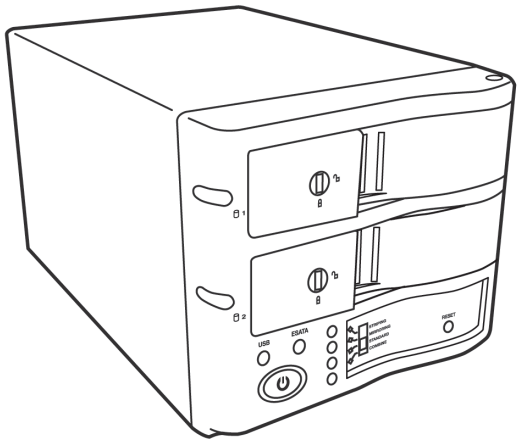
5 ：フロントドアの内側の金属バネより奥に差し込まれている事を確認したら、フロントドアを閉めます。



※無理にドアを閉めないでください。故障や破損の原因となります。

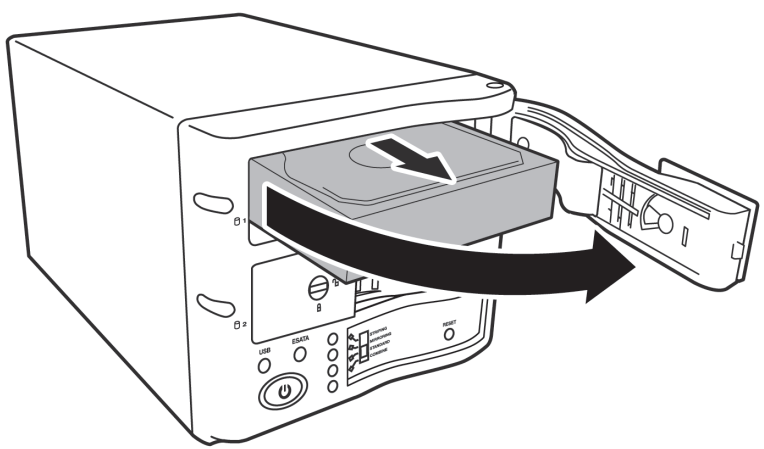
⚠注意　・本製品のドアに手を挟んだり、本製品のフレームやHDDの基板面、コネクタ等で手を切らないよう十分ご注意ください。

6 ：下段も同じようにセットして完成です。
長時間使用する場合には安全のためロックしてご使用ください。



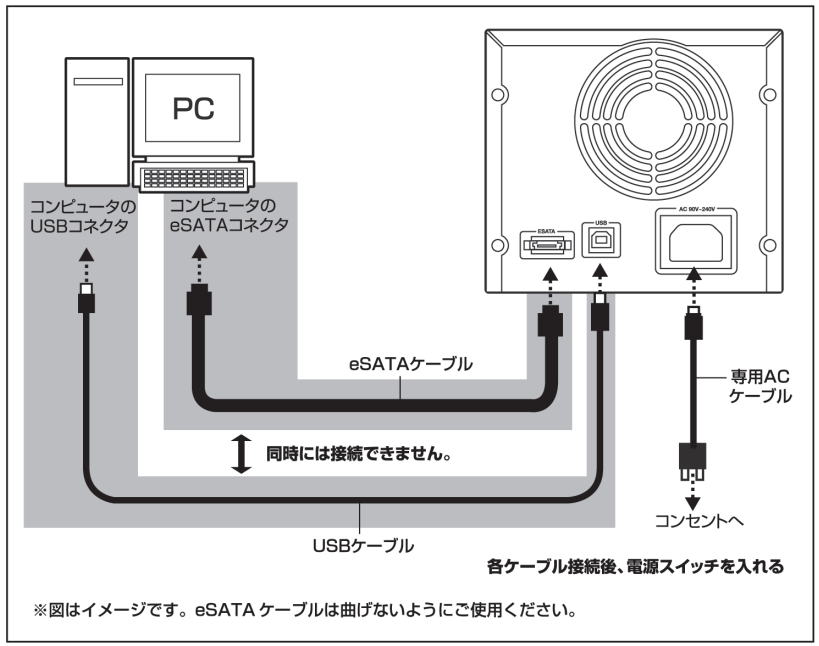
●取り出す場合は？

取り付けた時同様にドアを外すと、HDD がコネクタから外れて押し出されてきます。
そのまま引き出して取り出してください。



⚠注意 ・本製品のドアに手を挟んだり、本製品のフレームや HDD の基板面、コネクタ等で手を切らないよう十分ご注意ください。

PC との接続について



※図はイメージです。eSATA ケーブルは曲げないようにご使用ください。

【使用方法】

■本製品はまずディスクの使用方法を設定する必要があります。

※何も設定していない出荷時の状態だと、HDD をそれぞれ独立して認識するスタンダードモードとして認識します。

1：ディスクの構成を設定する（P.10）
　使いたいディスクの構成を設定します。
2：PC に接続します

■ USB 接続の場合

Windows/MacOS ともに OS 標準のドライバを読み込んで認識します。特にドライバのインストールをする必要はありません。
新しい HDD を接続した場合は領域の確保やフォーマットが必要ですので、17 ページからの領域の確保とフォーマットをご覧下さい。

■ eSATA 接続の場合

お使いの eSATA インターフェイスのドライバが正しくインストールされていれば、そのまま認識されます。特に本機のためにインストールするドライバはありません。
新しい HDD を接続した場合は領域の確保やフォーマットが必要ですので、17 ページからの領域の確保とフォーマットをご覧下さい。

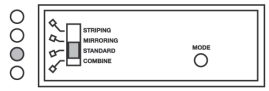
■内蔵した HDD をダイナミックディスクでフォーマットしていた場合

ダイナミックディスクは取り外しの出来ない内蔵用を前提としたディスクの容量確保形式ですので、本製品のような外付け HDD ケースにダイナミックディスクでフォーマットした HDD を内蔵すると、データの認識が出来ない等の不具合が生じる場合があります。
この場合、HDD のデータを別の場所にバックアップを取り、ベーシックディスク形式でフォーマットしなおしてご利用ください。
ダイナミックディスクかベーシックディスクかを確認するには、「ディスクの管理」画面にて確認できます。

【ディスクの構成を設定する（モード設定）】

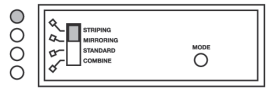
本機は前面にあるモード設定スイッチで、HDD を４種類の構成で利用する事が可能です。

・スタンダードモード（※出荷時状態）
HDD をそれぞれ独立して使用します



・コンバインモード
２台の HDD を連結して使用します。

・ストライピングモード
２台の HDD をそれぞれに分散して読み書きを行います。
分散して処理を行うため高速になります。



・ミラーモード
２台の HDD に同時に同じ内容を書き込みます。
片方が壊れても片方のディスクでデータを保持するため、
大事なデータのを入れておくには最適ですが、
使えるディスク容量は半分になってしまいます。

※データの保持には必ずバックアップと組み合わせて行うようにお願いいたします。
本製品はデータの保護手段の一つを提供するだけで、必ずしもお客さまのデータ保護を保証するものではありません。

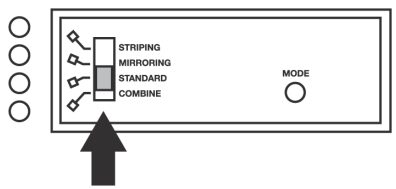
■ディスク構成の設定変更方法

設定を変更する方法は次のとおり行います。

※注意
モード変更をする際は、PC から取り外した状態でモード変更を行ってください。
モード変更を行った時点で一旦 PC からの接続が切れますので、データの転送等でエラーが発生する場合があります。

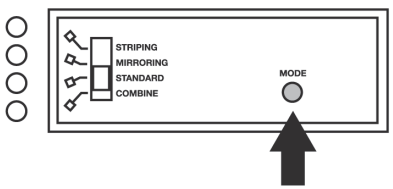
※注意
モードの変更は電源が【入っている】状態のみ可能です。
電源を切った状態でモード変更の手順を行っても、反映されませんのでご注意下さい。

1.



モード設定スイッチを設定したいモードに変更します。

2.



モード変更スイッチを押します。

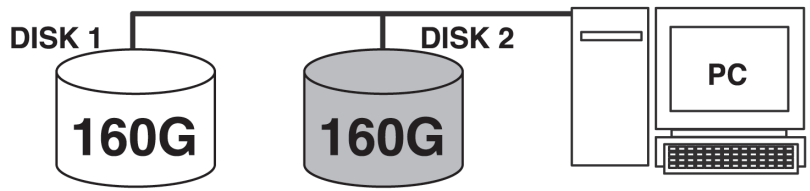
3.

モード変更スイッチを押すとモード設定スイッチで設定したモードに切り替わります。
PC と接続してモードが変更になったか（ドライブ数、容量）を確認してください。
モードによってどのように認識されるかは、各モードの説明をご参照ください。

■スタンダードモード

HDD をそれぞれ独立して認識させるモードです
それぞれが独立した別々の HDD として認識されます。ただし、USB 接続時の『ハードウェアの取り外し』においては、同じデバイスとして扱われますので、取り外しに関してはは両方同時に取り外され、片方のみ認識させるということは出来ません。
他の HDD ケース等で使用していた HDD を組み込んでも、そのままの状態で認識します。

※内蔵 HDD として使用していた場合で、ダイナミックディスク形式で領域確保してある場合は除きます。内蔵 HDD として使用してた HDD は、内蔵用でしか使用できない（切り離される事が想定されていない）ため、外付け HDD ケースに内蔵すると、認識しないばかりか、データの破損や消失を招く恐れがありますので、ご注意ください。

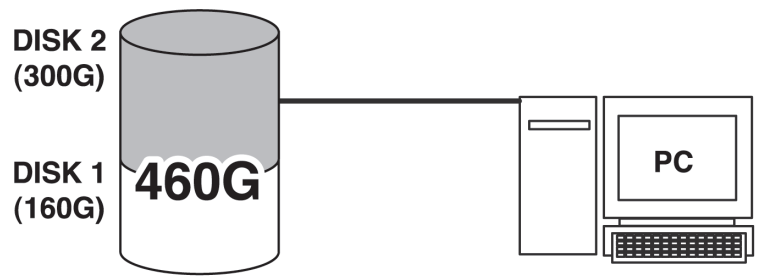


2つのHDDがそれぞれ認識されます。

■コンバインモード

HDD を連結して PC から一台の HDD として認識させるモードです
例： 160GB HDD + 300GB HDD =PC からは 460GB の外付け HDD として認識される。
異なる容量の HDD でも利用可能です。

※ディスクを連結している関係上、片方のディスクが故障するとデータの整合性が取れなくなり、データが失われます。



1つのHDDとして認識されます。

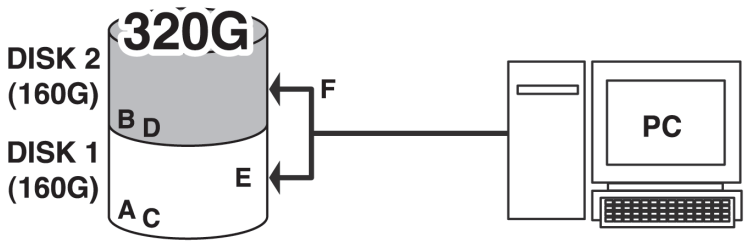
■ストライピングモード

HDD を連結して分散処理を行うモードです。
分散処理を行う分、読み書きの速度は向上します。
ただし、双方の HDD が同じ容量か、異なる容量を使った場合小さい方の容量と同じ容量までしか使用できなくなります。

※ USB 接続だけで使用する場合、USB2.0 の最大転送速度によって速度の高速化が見込めず、メリットがありませんのでコンバインモードで利用することをお勧めします。

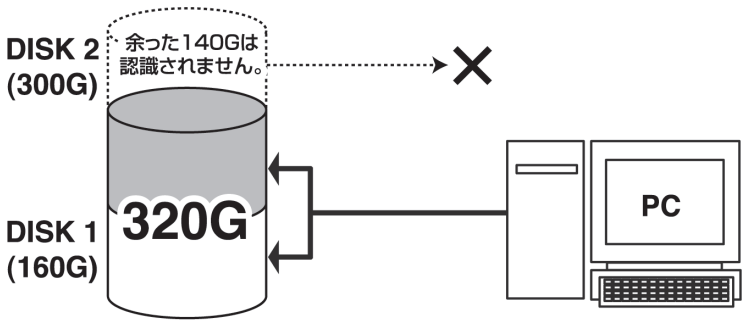
※二つのディスクに分散してデータを書き込む関係上、高速にはなりますが片方のディスクが故障した場合、保存したデータは失われます。

例 1 ： 160GB HDD + 160GB HDD = 320GB のストライピング HDD



1つのHDDとして認識されます。
高速でデータ転送します。

例 2 ： 160GB HDD + 300GB HDD = 320GB のストライピング HDD



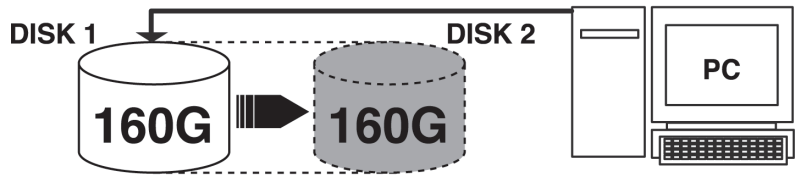
※例 2 の場合は 140GB 分の容量が無駄になります。余った 140GB 分は、無いものとして扱われますので、他の用途に使用する等は出来ません。

■ミラーモード

それぞれの HDD に同じ内容を書き込んで、HDD の破損によるデータ消失に備えるモードです。

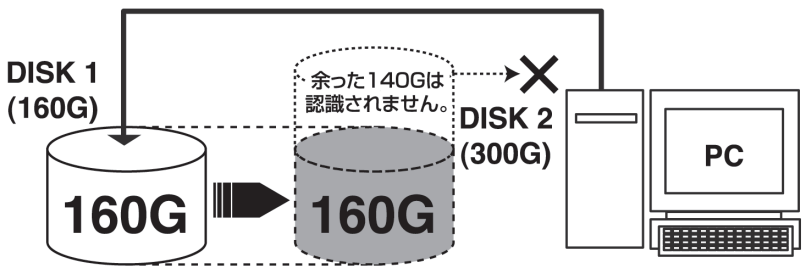
ただし、双方の HDD が同じ容量か、異なる容量を使った場合小さい方の容量と同じ容量までしか使用出来ません。
また、２箇所に同じデータを書き込む仕様上、使える容量はさらに半分になります。

例 1 ： 160GB HDD + 160GB HDD = 160GB のミラー HDD



1つの160GのHDDとして認識されます。
自動的にバックアップされていきます。

例 2 ： 160GB HDD + 300GB HDD = 160GB のミラー HDD



1つの160GのHDDとして認識されます。
自動的にバックアップされていきます。

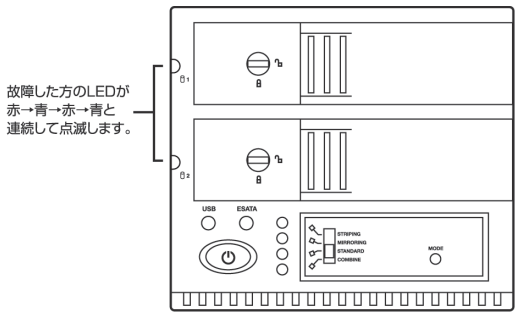
※例 2 の場合は 140GB 分の容量が無駄になります。余った 140GB 分は、無いものとして扱われますので、他の用途に使用する等は出来ません。

《ミラーモード利用上の注意》

ミラーモードを設定しただけではHDDは利用可能になりません。
ミラーモードを設定した後は、【必ずPCでフォーマット】を行ってください。
フォーマットを行わず、古い状態のデータがそのまま見えることがありますが、正常にデータは保存されておりません。必ずフォーマットを行ってください。

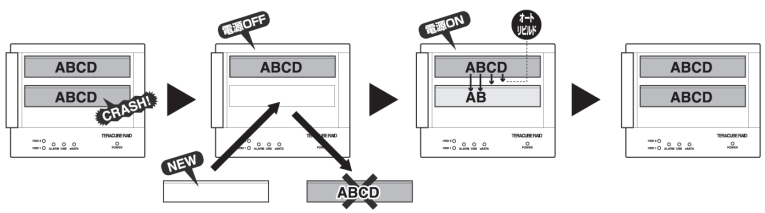
《片方のディスクが故障した場合》

PCからは特に問題なくそのまま読み書き可能です。
LEDの状態は次のようになります。



このような状態になった場合、速やかに故障したHDDを入れ替えてください。
故障したHDDを入れ替えると、自動的に同期処理が行われ、RAIDが再構築されます。

注意!!!　ディスクのアクセス中はHDDの入れ替えを行わないで下さい!!!
負荷が重なってディスクがHDDから切り離される可能性があります。
PCと切り離した状態か、電源を切った状態での入れ替えをお勧めします。



※同期処理中でもディスクアクセスは可能です。
※同期処理中にPCの再起動等で割り込みが発生すると、一旦同期処理処理が中断されますが、その後自動的に再開します。
※同期処理にかかる時間は内蔵したHDDによって異なりますが、一例として500GBのディスク２台でミラーモードに設定した場合約４時間程かかります。

■入れ替える場合は以下の点にご注意下さい。

・モード切替をしたりモードスイッチを押さないでください！！ケース側がRAID1の状態を保持していますので、この段階でモード切替を行うと、同期処理が正常に行われないばかりか、データが失われる恐れがあります。
・交換するHDDは故障したHDDと同じか、容量の大きなものを使用してください。

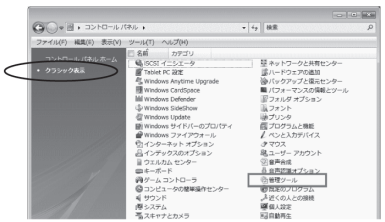
【領域の確保とフォーマット】

注意：この説明では、ハードディスクドライブにパーティションを分割しない設定で領域を確保する前提での操作を説明しています。パーティションの分割等の操作については、Windows の説明書や参考書籍などをご参照ください。

※この手順どおりに処理を行うと、HDD のフォーマットを行って HDD 内に入っているデータを消去します。消したくないデータが入っている場合は、領域の確保とフォーマット処理は行わないようにしてください。

□Windows Vista の場合

1.



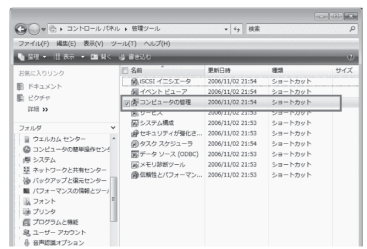
フォーマットをするアプリケーションを起動するために、スタートから

【コントロールパネル】 → 【クラシック表示】 → 【管理ツール】

の順に開きます。

※コントロールパネルを開いても【クラシック表示】にしないと管理ツールが表示されませんのでご注意ください。

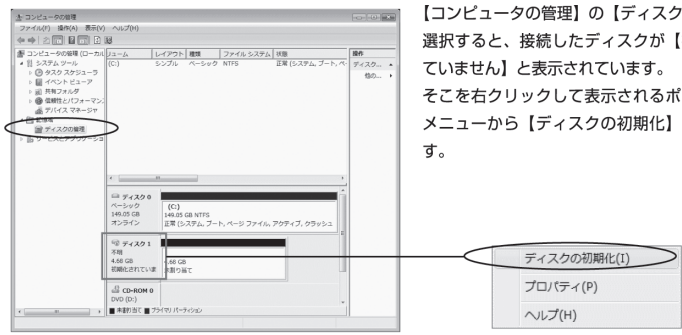
2.



【管理ツール】の中の【コンピュータの管理】を開きます

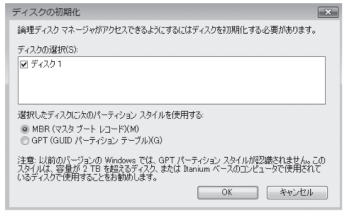
※このとき【ユーザーアカウント制限】ウインドウが表示されます。【続行】をクリックしてください。
続行できない場合は、ユーザーに管理者としての権限がありません。
システムの管理者にご相談ください。

3.



【コンピュータの管理】の【ディスクの管理】を選択すると、接続したディスクが【初期化されていません】と表示されています。
そこを右クリックして表示されるポップアップメニューから【ディスクの初期化】を選択します。

4.



【ディスクの初期化】ウインドウが表示されます。

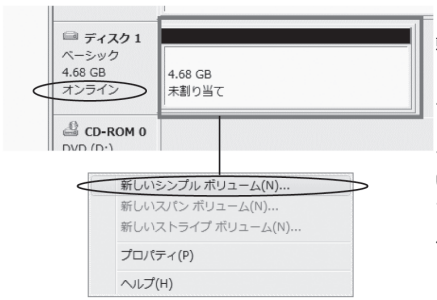
先ほど選択したディスクで間違いないかを確認して【OK】をクリックします

※パーティションスタイルについて

パーティションスタイルに関しては 2TB 以上の容量を扱う場合以外は、MBR 形式を使用する事をお勧めします。

GPT 形式は、Windows2000 や WindowsXP 等では読み書きすることが出来ません。
また、ハードウェアの仕様によって、2TB を超える容量が扱えない場合もございます。
GPT 形式であれば 2TB を超える容量が扱える訳では無いことに注意してください。

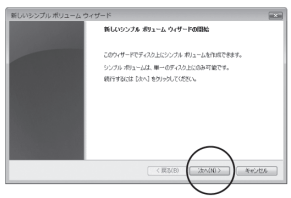
5.



【ディスクの初期化】が完了するとディスクの状態が【オンライン】に変わります。
この状態ではまだ使用できませんので、ボリュームを作成してフォーマットする必要があります。

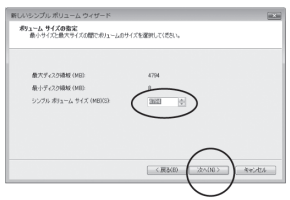
ディスク名の表示の右側の、容量が表示されているところを【右クリック】すると、ポップアップメニューが表示されますので【新しいシンプルボリューム】を選択します。

6.



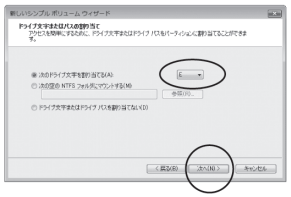
【新しいシンプルボリュームウィザード】が表示されます。
設定する箇所はありませんので【次へ】をクリックします。

7.



【ボリュームサイズの指定】が表示されます。
MB（メガバイト）単位でボリュームサイズを指定します。
ここで指定したサイズがパーティションサイズとなりますので、任意の数値を指定してください。特に指定しなければ最大容量で設定されます。
設定したら【次へ】をクリックします。

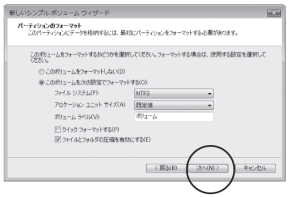
8.



【ドライブ文字またはパスの割り当て】ウインドウが表示されます。
ドライブ文字はマイコンピュータやエクスプローラで割り当てられるドライブのアルファベットです。通常、C が起動ドライブで以降アルファベット順に割り当てられます。特に指定がなければ空いている割り当て番号の一番若いアルファベットが割り当てられます。

【次の空の NTFS フォルダにマウントする】と【ドライブ文字またはドライブ パスを割り当てない】は通常使いませんので選択しないでください。
こちらの機能を選択する場合は、Windows のヘルプや参考書をご参照ください。

9.



【パーティションのフォーマット】ウインドウが表示されます。

・ファイルシステム

NTFS と FAT32 が選択可能です。

※ FAT32 では 32GB 以上の領域をフォーマットできませんので、32GB 以上の領域を使用する場合は NTFS でフォーマットを行ってください。

・アロケーションユニットサイズ

パーティションのアロケーションユニットサイズを指定します。特に使用するアプリケーション等の指定がない限り、規定値で問題ありません。

・ボリュームラベル

マイコンピュータ等から表示されるボリュームラベルを設定します。

・クイックフォーマット

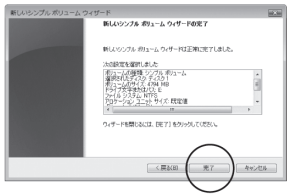
このチェックボックスを有効にすると、フォーマットする際にクイックフォーマットでフォーマットを行います。
通常のフォーマットと違い、ディスクの全領域をベリファイしませんので、時間がかからない替わりに、不良セクタ等の代替も行われません。お使いのディスクの状態に合わせて選択してください。

・ファイルとフォルダの圧縮を有効にする

このチェックボックスを有効にすると、ファイルとフォルダの圧縮が有効になります。
通常よりも大きな容量を使用できるようになりますが、パフォーマンスの面では圧縮されていない状態よりも劣ります。
一部のアプリケーションではこの設定が推奨されていないこともありますのでご注意ください。

設定が終わりましたら、【次へ】をクリックします。

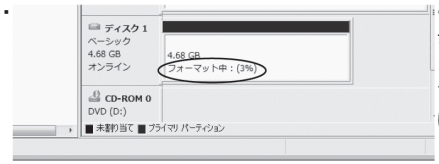
10.



【新しいシンプルボリュームウィザードの完了】ウインドウが表示されます。

テキストボックスの設定を確認して【完了】をクリックするとフォーマットが開始されます。

11.

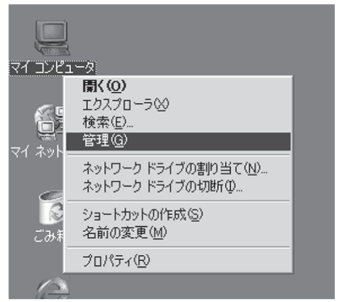


これでフォーマットの作業は完了です。
ディスクの管理の容量表示ウインドウには、フォーマット完了までの進行状況が表示されます。
フォーマットが完了すると、マイコンピュータにディスクが表示され、使用可能になります。

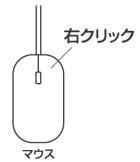
□Windows2000/WindowsXP の場合

注意：フォーマットにはアドミニストレータ権限を持っているユーザでログインしておこなって下さい。

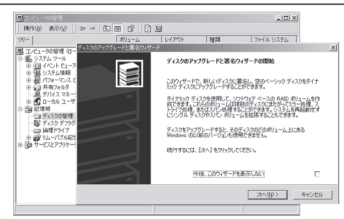
1.



デスクトップのマイコンピュータを「右クリック」で開き「管理」を選択します。
「コンピュータの管理」ウインドウが開きます。

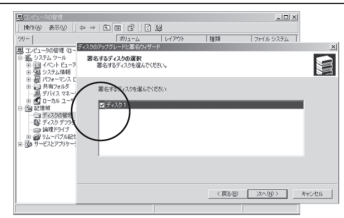


2.



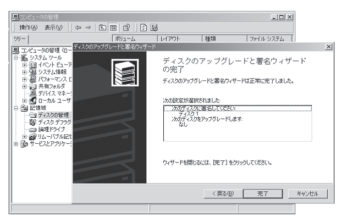
「コンピュータの管理」ウインドウの「ツリー」の中から「ディスクの管理」を選択すると、「ディスクのアップグレードと署名ウイザード」が表示されます。
「次へ」をクリックします。

3.



「署名するディスクの選択」ウインドウが表示されます。
署名するディスクにチェックを入れて「次へ」をクリックします。

4.

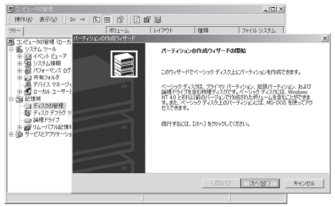


「ディスクのアップグレードと署名ウイザード完了」ウインドウが表示されます。
「完了」をクリックしてウインドウを閉じます。

5.

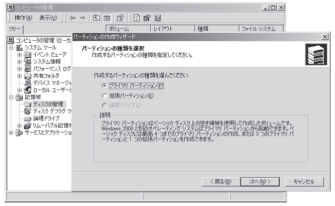
次にパーティションの作成を行います。
「未割り当て」と表示され、斜線になっているディスクがフォーマットされていないディスクですので、「未割り当て」と表示されている部分を「左クリック」で選択し、「右クリック」でメニューを開き、「パーティションの作成(P)..」を選択します。

6.



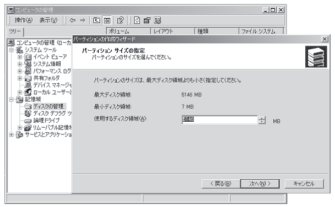
「パーティション作成ウイザード」が表示されます。
「次へ」をクリックします。

7.



「パーティションの種類を選択」ウインドウが表示されます。
「プライマリパーティション」を選択して「次へ」をクリックします。
※一つのディスク上に５つ以上のパーティションに分割する場合は、拡張パーティションを選択します。

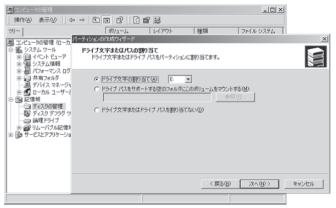
8.



「パーティションサイズの指定」ウインドウが表示されます。
「次へ」をクリックします。

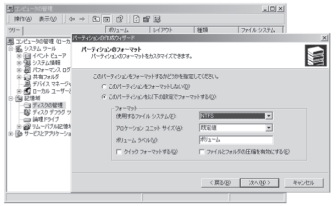
※既定値は最大容量（１パーティション）ですが、複数のパーティションを作成するには、容量を減らし、「パーティション作成ウイザード」を繰り返して行う事で、複数のパーティションを作成する事が出来ます。

9.



「ドライブ文字またはパスの割り当て」ウインドウが表示されます。
ドライブ文字を指定して「次へ」をクリックします。
※「ドライブパスをサポートする空のボリュームにマウントする（M)」はWindows2000、XPの機能で、元々あったハードディスクの中に、新しいハードディスクを増設する方法です。詳しくはお使いのWindowsの説明書、ヘルプ、参考書籍をご参照ください。

10.



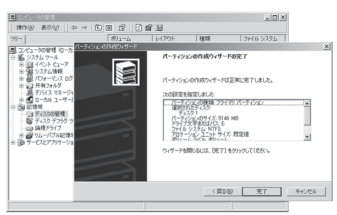
「パーティションのフォーマット」ウインドウが表示されます。
このウインドウでフォーマット設定をする事が出来ます。
・使用するファイルシステム
NTFSとFAT32が選択可能です。

※Windows2000、XPでは32GBを越えるFAT32ボリュームをフォーマットする事が出来ません。

・アロケーションユニットサイズ
アロケーションユニットの大きさを設定します。通常は既定値のまま変更する必要はありません。
・ボリュームラベル
「マイコンピュータ」で表示されるボリューム名です。指定しなければ規程の「ボリューム」というボリュームラベルが設定されます。
・クイックフォーマットする
このチェックボックスを入れておくとフォーマット時にクイックフォーマットを行います。
以前フォーマットされていたHDDのみ使用可能です。新規のディスクはクイックフォーマットする事ができません。
・ファイルとフォルダの圧縮を有効にする
Windowsのファイル圧縮機能を使用します。
ファイルを圧縮して格納する事により、実際の容量よりも大きく使用する事が可能ですが、仕様的にファイルの読み書き速度の低下を招くようです。詳しくはお使いのWindowsの説明書、ヘルプ、参考書籍等をご参照ください。

全て設定して「次へ」をクリックします。

11.



「パーティション作成ウイザードの完了」ウインドウが表示されます。
「完了」をクリックして閉じます。

12.

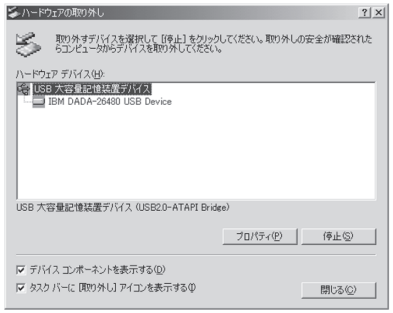
フォーマットが開始されます。
「ディスクの管理」で表示されるステータスが「フォーマット中」になります。
進行状況が 100%になり、ステータスが「正常」になればフォーマット完了です。
使用可能になっていますので、マイコンピュータからディスクアイコンを開いてコピーなどを行ってみてください。

フォーマット中にディスクにアクセスしようとすると警告が表示されますが故障ではありません。
フォーマット中は、コンピュータ、HDD の電源を切ったり、ケーブルを取外したり、Windows を終了しないで下さい。故障の原因となります

【コンピュータ起動中のモード変更と HDD の取り外し】

本機は USB 接続時に起動中の取り外しが可能です。
※ eSATA 接続は起動中の取り外しが出来ませんのでご注意下さい。

1.



Windows の「ハードウェアの取り外し」を使用します。HDD を接続すると、タスクトレイに「ハードウェアの取り外し」アイコンが表示されます。

「ハードウェアの取り外し」アイコンをダブルクリックすると、「ハードウェアの取り外し」ウインドウが表示されます。

「大容量記憶装置デバイス」をシングルクリックで選択し、「停止」をクリックします。

続いて「ハードウェアデバイスの停止」ウインドウが表示されますので、「OK」をクリックします。

2.

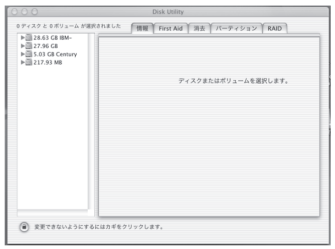
取り外し完了のメッセージが表示されて完了です。「OK」を押して Windows 側からの HDD の取り外しを完了します。

※スタンダードモードで複数の HDD を接続している場合、どれかひとつの取り外しを行うと全ての HDD が取り外しされます。

【Macintosh での使用方法】

MacOS X では MacOS 標準のドライバを使用します。
※予め MacOS9.x で初期化された物は、フォーマットせずに使用可能です。
MacOS X でのフォーマットは OS 標準の「Disk Utility」を使用します。

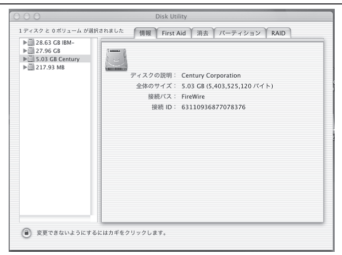
1.



「Disk Utility」を起動します。
※「Disk Utility」は、アプリケーション＞Utility の中にあります。
左側に接続されているフォーマット可能ディスクの一覧が表示されます。
本機に接続した HDD は、「xx GB Century」と表示されます（xx は接続した HDD の容量）

これをクリックして選択します。

2.



接続されているディスクの情報がされます。

3.

上の「パーティション」タブをクリックします。
パーティション設定を変更できます。

ボリュームの方式
：作成するボリューム数を選択します。８つまで分割して作成する事が可能です。

ボリューム
：メディアの分割状況が表示されます。

ボリューム情報
：ボリューム情報は「ボリューム方式」で選択されたボリューム情報を変更します。「ボリュームの方式」で別のパーティションを選択するとパーティション毎に設定を変更する事が可能です。

名前
：作成するボリューム名を変更できます。変更しないと「名称未設定」という名前が付けられます。

フォーマット
：作成するボリュームのフォーマットを選択します。MacOS 標準、MacOS 拡張、UNIX ファイルシステム、空き容量が作成できます。通常は MacOS 標準か MacOS 拡張を選択してください。

サイズ
：作成するボリュームのサイズを変更できます。

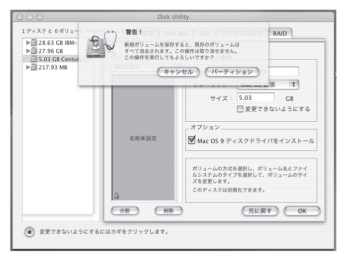
オプション
：MacOS9 ディスクドライバをインストールチェックをすると MacOS9 で動作するドライバをインストールします。

分割
：選択されているボリュームを同じ容量で分割します。

削除
：選択されているボリュームを削除します。

元に戻す
：直前の変更を元に戻します。

4.



全て決定したら右下の「OK」をクリックします。
警告が表示されます。

作成する場合は「パーティション」を、キャンセルする場合は「キャンセル」をクリックします。

5.

パーティションが作成され、デスクトップにマウントされます。

取り外しをする場合はこのアイコンを Dock の中のごみ箱にドロップします。
※スタンダードモードで複数の HDD を接続している場合、どれかひとつの取り外しを行うと全ての HDD が取り外しされます。

【トラブルシューティング】

主なトラブルの対処方法を説明いたします。
「故障かな？」と思われましたら、以下をお読みのうえ、記載されている対処方法をお試しください。

■認識されない

以下の点をご確認下さい。
接続ケーブル、AC ケーブル及び AC アダプタが正しく接続されているか
電源 LED や各接続（eSATA/USB）の LED が正しく点灯しているか
eSATA I/F 接続の場合、正しくドライバがインストールされて動作しているか
eSATA I/F の仕様はポートマルチプライヤーに対応しているか

■電源ランプが点灯しても HDD が回転している音がしない

HDD が正しくコネクタに接続されているかをご確認ください。

■ Windos で eSATA 接続時、ハードウェアの取り外しに本機の HDD が表示されません。

eSATA 接続時のハードウェアの取り外しは、接続された eSATA I/F によって可能かどうかが異なります。詳しくはお使いの eSATA I/F の製造元にお問い合わせください。
また、eSATA HDD の動作中の取り外しは、設定によってはデータの破損等に繋がる場合がありますので、弊社ではお勧めしておりません。

■ MacPro 接続時、スリープから復帰するとフリーズする

本機はスリープに対応しておりません。スリープする前に取り外しを行ってからスリープを行ってください。
同時に、Macintosh のスリープにも対応しておりません。

■高速に読み書きが出来ない（USB）

USB 接続では例え USB2.0 接続でも、最大の転送速度が 30MB/Sec 前後となります。
（環境によって異なりますので予めご了承ください）
そのため、接続する HDD や eSATA I/F にもよりますが、eSATA 接続よりも速度が低下します。
同時に、速度を重視するためのモードであるストライピングモード（RAID0）は最大転送速度の低い USB 接続では意味を成さないばかりか、データの保護の面では不利になります。

【よくある質問と回答】

Q:RAID とは何ですか？

A:Redundant Arrays of Inexpensive Disks の略で、複数の HDD を組み合わせて HDD の信頼性を確保する技術のことです。

Q:ハードウェア RAID とソフトウェア RAID というモノがありますが、この製品はどちらですか？

A:本機は RAID の構築に本体以外のソフトウェア等を必要としないハードウェア RAID となります。

Q:ハードウェア RAID はソフトウェア RAID よりも高速ですか？

A:環境や使用する機器によります。一概にハードウェア RAID のほうが高速だとは言えません。
ハードウェア RAID である利点は、ソフトウェアによる設定が必要無い事や、PC が起動していない状態でも RAID の再構築が行える等があります。

Q:ストライピングやコンバインモードを使用すると HDD の故障率が上がりますか？

A:上がりませんが、データ保護の観点からするとミラーリングやスタンダードモードよりも劣ります。
ストライピングやコンバインモードは、複数の HDD を組み合わせて一台の HDD を構築するため、片方の HDD が故障すると、構成していた HDD 内に収められている全データが損なわれる事になります。

Q:ミラーリングを行えばバックアップはしなくてもいいですか？

A:必要です。不測の事態（HDD2 台同時故障や、ウィルス等のソフトウェア的なデータ破壊等）を備えるという意味でミラーリングはバックアップの代替えにはなりません。
データ保護を行うのであれば、ミラーリングモードで RAID を構築した上で、保存したデータを別の装置や媒体にバックアップしてください。

— ご注意 —

1．本書の内容の一部または全部を無断転載することは固くお断りします。
2．本書の内容については、将来予告なく変更することが有ります。
3．本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなど、お気づきの点がございましたらご連絡ください。
4．運用した結果の影響については、【3.】項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。
5．本製品がお客様により不適当に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはセンチュリーおよびセンチュリー指定のもの以外の第三者により修理・変更されたこと等に起因して生じた損害等に付きましては、責任を負いかねますのでご了承ください。

※記載の各会社名・製品名は各社の商標または登録商標です。
※ This product version is for internal Japanese distribution only.
It comes with drivers and manuals in Japanese.
This version of our product will not work with other languages operating system and we provide help support desk in Japanese only.

【販売・サポート】
株式会社 センチュリー

■サポートセンター
TEL 04-7142-7533（平日 午前10時～午後5時まで） FAX 04-7142-7525
http ：//www.century.co.jp/ e-mail: support@century.co.jp